

文部科学大臣殿

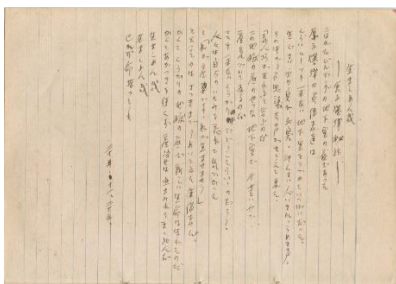
日本ユネスコ国内委員会殿

広島の被爆作家による被災直後の資料の ユネスコ「世界の記憶」登録を応援します

1945年8月6日午前8時15分、広島に原子爆弾が投下され、人びとの暮らしは一瞬にして失われ、被爆直後は「75年間は草木も生えない」と言われてきました。

被爆から78年経った今、核兵器禁止条約が2021年1月22日に発効したにもかかわらず、核兵器使用について囁かれ、第三次世界大戦の可能性も指摘されています。だからこそ、戦争放棄を掲げた戦後平和主義の原点に戻ることが重要なのではないのでしょうか。

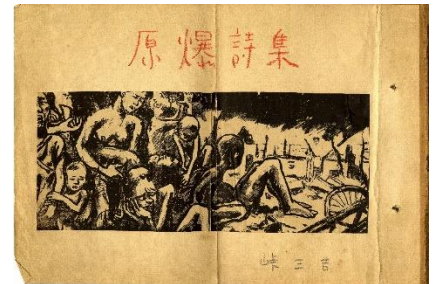
私たちは、20世紀の忘れてはならない歴史的な事象を体験に基づき表現した記録物を、時代を超えて核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える、人類共通の重要な遺産として後世に伝えていきたいと思っています。この署名は、広島市の被爆作家による被災直後の資料のユネスコ「世界の記憶」登録申請を応援するものです。



「生ましめん哉 原子爆弾秘話」
(栗原貞子)



「原爆被災時の手帖」
(原民喜)



「原爆詩集（最終稿）」他
(峠三吉)

※「屍の街」(大田洋子)も追加予定で、現在デジタル化を進めています。

ユネスコ「世界の記憶」とは、世界的に重要な文書、絵画、フィルムなどの保存やアクセス促進を目的に、ユネスコが1992年に始めた事業で、1995年から登録が開始されました。「アンネ・フランクの日記」「ベートーヴェンの自筆譜」などが登録されており、日本からは「山本作兵衛炭坑記録画・記録文書」が2011年に初登録されました。

上記趣旨に賛同いたします。

年 月 日

団体名

印

住所

集約先：〒730-0802 広島市中区本川町2丁目1-29-301 「広島文学資料保全の会」

Tel: 082-291-7615 携帯: 070-5672-3058 (土屋)